

研究活動報告

特別講演会（堀内四郎ロックフェラー大学人口研究室準教授）

ロックフェラー大学人口研究室準教授、堀内四郎氏による「寿命の男女差：近年における国際趨勢の転換と日本の特殊性 (Gender Differences in Longevity: Recent Change in International Trends and Japan's Peculiarities)」と題された特別講演会が、2006年10月26日（木）、13：30～15：30、当研究所第4・5会議室において開催された。講師の堀内四郎準教授は、人口学的研究における寿命・死亡率研究の世界的権威あり、多くの業績があるが、最近も共編著“Human Longevity, Individual Life Duration, and the Growth of the Oldest-Old Population (International Studies in Population, Springer, 2006)”を出版したばかりであり、今回の特別講演会はこの分野の最先端の情報に接する貴重な機会となった。講演では、近年先進諸国において、女性の平均寿命の伸びが緩慢となり、寿命の男女差が縮小する傾向が見られ、女性における喫煙率の上昇などの行動的要因が指摘されているが、これらのデータを人口統計学的に分析するため、平均寿命の男女差の変化を、男女の死亡率性比の要因と死亡率の年齢パターンの要因に分解し、各国のデータを用いて時系列的に観察を行った。これによれば、近年の男女差の縮小には死亡率の年齢パターンが大きい要因となっていることが観察された。このように、疫学的な調査を行う前提として、人口統計学的な検討の有効性、必要性が指摘された。また、氏の指摘によれば、これら先進諸国の中で、わが国は非常に特異的であり、女性の平均寿命はすでに世界一であるにもかかわらず、他の多くの国々で見られるような伸びのペースの停滞は見られず、長寿化が進んでいるとのことであった。（金子隆一記）

特別講演会（2月13日、Prof. Montserrat SOLSONA）

2007年2月13日（火）午後4時～6時に当研究所で、スペインのバルセロナ自治大学人口研究センター（Centre d'Estudis Demogràfics, Universitat Autònoma de Barcelona）の Montserrat SOLSONA 教授が“Divorces and separations in Spain. Before the legal process and after divorce”（「スペインにおける離婚と別居—法的手続き前と離婚後—」）と題された特別講演を行った。同センターはスペインを代表する人口研究機関で、同センター長の Anna CABRÉ 教授を中心として欧州委員会事務局からの助成を受けて IPUMS のヨーロッパ版の作成拠点となっているし、2008年にはヨーロッパ人口学会が開催することになっている。

SOLSONA 教授は家族人口学・国際人口移動の専門家であるが、現在、GGs (Gender and Generation Surveys) のスペイン版を企画中とのことである。今般、城西国際大学大学院女性学専攻の集中講義で来日される機会を捉えて講演をしていただいたが、講演では離婚後の個人の軌跡に関する最近の研究、スペインの司法統計原票のマイクロデータ（1996年から2006年にわたる約63万件）の分析結果を報告された。その際、新たな家族の形成とそれが前のパートナーやその相手との間に生まれた子どもとの関係に及ぼす影響に重点を置かれた。宗教や法制度について日本との違いがあるため、理解にやや手間取ったが、忙しい時期にもかかわらず出席された少数の参加者と濃密な議論が展開された。再び2年後にも集中講義のために来日される予定とのことなので、スペイン版 GGS が実現していれば、それに関する講演をしていただけることを期待したい。（小島 宏記）